交野市第５次総合計画基本構想フレーム（R4/2/21 版）

※全体構成を把握するためのイメージです。

資料１－１

基本構想

1 序論部分

（1）総合計画の概要

① 総合計画策定の趣旨
② 計画の構成と期間
③ まちの概要
・沿革
・地理的特徴
・これまでの総合計画

（2）取り巻く社会潮流

① 人口構造の変化
② 経済状況の動向
③ 安全・安心に対する意識の高まり
④ 高度情報化社会の進展
⑤ ライフスタイルや価値観の変化
⑥ 持続可能な社会の構築

（3）まちの現状と特性（抜粋）

【統計等】
- 大都市へのアクセスが良く、身近な自然に溢れた、戸建て中心のベッドタウン
- 自然動態は微減、社会動態は均衡
- 高齢者単身世帯の増加、空き家は微増
- 保育需要の増加、児童・生徒数の減少
- 事業所数は微減、第二京阪沿道の活性化
- 市の債務は減少するも厳しい財政状況

【市民意識】
- まちへの好意度と定住意向が高い
- 自然・生活環境に対し、満足度、重要度ともに高い
- 子育て風土に対する満足度が高く、子育て支援に対する重要度が高い
- 高齢化に伴い福祉の充実や公共交通の利便性に対する意識が高い

（4）将来に向けての課題

① 定住都市にふさわしい環境づくり
② 安全・安心なまちづくりの推進
③ グローバル社会における責任と協働
④ 地域の活力の創出
⑤ 持続可能で安定的な行政運営

2 基本構想部分

（1）まちの将来像（基本的な理念）

懐かしさと新しさが交わる
みんなのこころが　和（なご）むまち　かたの

- 古くからの伝統文化と緑あふれる自然環境に恵まれ、素朴でゆったりとした風土が育まれてきた本市は、市民憲章に「和（自然と・文化と・人と）」を掲げ、自然との調和を図りながら都市基盤整備を進めることにより、安らぎのある雰囲気はそのままに、新しい出会いや可能性が感じられるまちとして発展してきました。
- まちが成熟するとともに人口が減少局面に入り、少子高齢化、災害や感染症、社会インフラの老朽化などのリスクにより、これまで当たり前であった暮らしの安心・安全を維持していくことが難しい時代に入っています。
- このような背景から、本市がこれまで大切にしてきた、人と自然、古さと新しさ、多様な考え方などが交わり、調和し、認め合う価値観を強みとして、急速に変化していく社会にしなやかに、かつ大胆に対応しながら、みんなが穏やかな暮らしを営み続けることができる“こころのふるさと”としてあり続ける姿を表現しました。

（2）まちづくりの目標と基本姿勢（市のありたい姿・方向性）

まちづくりの目標

1 みんながのびのびと学び、みんなで子どもを育むまち
2 みんなが笑顔にあふれ、お互いに認め支え合うまち
3 みんなが助け合い、安心して住み続けられるまち
4 みんながつどい、交流が生まれるまち
5 みんなが自然や文化を慈しみ、次世代に引き継いでいくまち

基本姿勢

- 持続可能な行財政運営
- 多様な主体との協働

（3）人口の将来展望

- 2020年国勢調査の結果を踏まえ、将来人口推計とシミュレーションを実施。（基礎資料：人口ビジョン改訂版）
- 本市が目指す人口の将来展望を設定。

（4）都市構造と土地利用（予定）

基本計画

概要
- まちづくりの目標に対する施策体系を明示
- まち・ひと・しごと創生総合戦略、SDGs との関係整理

運営方針
- 行政運営の方針（財政運営、DX、情報発信等）
- 協働の考え方（市民・団体・事業者等）

分野別計画
- 分野別の現状と課題、目指す方向性
- 主な取り組み内容、施策の指標

実施計画

概要
- 基本計画に示した施策の方向性を具体化するための取組み（事業）を整理。
- 各施策と事業との関係を体系的に示すとともに、予算との関係を明示する。基本計画の進捗を示す資料としても活用。